

令和3年度 第4回安曇野市協働のまちづくり推進基本方針及び  
協働のまちづくり推進行動計画策定・評価委員会 会議概要

|                    |              |  |
|--------------------|--------------|--|
| 1                  | 会議名          | 令和3年度 第4回安曇野市協働のまちづくり推進基本方針及び協働のまちづくり推進行動計画策定・評価委員会（協働推進委員会）                 |
| 2                  | 日時           | 令和4年3月11日（金） 午前9時30分から午前11時30分   |
| 3                  | 会場           | 安曇野市役所本庁舎 大会議室   |
| 4                  | 出席者          | 磯野会長、細川副会長、佐々木委員、鷺澤委員、水原委員、大澤委員、吉田委員、山田委員、小澤委員、亀井委員、川崎委員、桜井委員、長澤委員、森岡委員 計14名 |
| 5                  | 市側出席者        | 山田市民生活部長、地域づくり課 高橋課長、児玉課長補佐、寺島主査、藤原主任、土屋会計年度任用職員                             |
| 6                  | 公開・非公開の別     | 公開   |
| 7                  | 傍聴人          | 0人 記者 0人   |
| 8                  | 会議概要作成年月日    | 令和4年3月14日  |
| <b>協 議 事 項 等</b>   |              |  |
| <b>1 会議の概要</b>     |              |  |
| 1                  | 開会           |  |
| 2                  | あいさつ         |  |
| 3                  | 報告事項         |  |
|                    |              | (1) 令和3年度に実施した個別協働事業の評価<br>(2) 令和3年度に実施した個別協働事業の概要                           |
| 4                  | 協議事項         |  |
|                    |              | (1) 協働推進行動計画の進捗評価（令和3年度末段階）<br>(2) 令和4年度の協働推進委員会の年間計画                        |
| 5                  | その他          |  |
|                    |              | (1) 令和4年度第1回委員会 ※次回は6月9日（木）午前9時30分～<br>(2) 第2回学習会 ※次回は4月20日（木）午前9時30分～       |
| 6                  | 閉会           |  |
| <b>2 報告・協議事項概要</b> |              |  |
| 3                  | 報告事項         |  |
|                    |              | (1) 令和3年度に実施した個別協働事業の評価<br>(2) 令和3年度に実施した個別協働事業の概要                           |
|                    | <b>【事務局】</b> |  |
|                    |              | ・資料1に基づき令和3年度に実施した個別協働事業の評価、資料2に基づき令和3年度に実施した個別協働事業の概要を説明。                   |
|                    | <b>【委員】</b>  |  |
|                    |              | ・総合評価シートを作成する際、市担当部署と各団体はそれぞれ相手の評価を見ているか。                                    |
|                    | <b>【事務局】</b> |  |

・それぞれの自己評価を見て、共有した上で市担当部署が最終的な総合評価を付けるよう依頼している。

**【委員】**

・市担当部署と団体の自己評価に差が生まれる場合があると思う。それぞれが事業をどう受け止めているかも大切な視点だ。

・「今後に向けた改善事項」は、事業を良くする観点で記入されている例が多いが、準備を進める上で何が必要かといった視点でも記入されれば更に良くなると感じる。

**【会長】**

・協働をよく理解している地域づくり課や市民サポートセンターは、しっかりと評価されている。むしろ、地域づくり課や市民活動サポートセンターは厳しい評価であるとも感じた。

**【副会長】**

・協働事業を行う各担当部署が各団体と評価する際、評価の観点を統一するためにも地域づくり課がフォローすることを提案したい。協働には実行委員会や共催、事業協力などさまざまな形があるが、事業ごとにその形式が適当か考える必要がある。

**4 協議事項**

(1) 協働推進行動計画の進捗評価（令和3年度末段階）

**【事務局】**

・資料3-1、3-2、3-3に基づき令和3年度末段階の進捗状況を説明。

**【委員】**

・「効果的な情報発信の仕組み」の課題として、市民活動団体を身近に感じていない市民にも情報を届ける工夫づくりが必要とあるが、大切な視点だ。多くの市民活動は「点」の活動だが、「面」に広げていかなければならない。来年度の方向性にサポートセンター通信の配布場所を検討するとあるが、各地区の回覧を活用することを検討してほしい。

・地域区長会の際、ぜひ市民活動団体に来ていただき活動をPRしていただきたい。また、区ごとに年に1、2回総会が開かれるのでぜひ活用してほしい。

**【会長】**

・サポートセンター通信が回覧に入ればより多くの人が見ることができる。

**【事務局】**

・来年度の方向性として記載している取り組みは、事務局の地域づくり課で気付いた範囲。いただいた意見を参考に、面的な検討を進めていかなければならない。

**【委員】**

・「区など自治会への加入促進支援」に関連して、未加入者に向けて区に加入するメリットをまとめた資料・パンフレットはあるか。

**【事務局】**

・転入者が手続きで地域づくり課の窓口に来た際、各区が作成した区紹介カードを配っている。支えあい助け合いという自治会の性質上、目先のメリットを示すことは難しい面もある。

**【委員】**

・区への加入はメリット・デメリットで考える問題ではないように感じる。何かあった時に助けになるのは周りの人たちであり、そういったメリットはあるが、それ以外は役員が回ってく

るなどデメリットばかりだ。情報を発信して区の活動を理解していただき、助け合いで区に入るという気持ちを醸成していくしかない。

**【事務局】**

・安曇野市自治基本条例では「市は、区の目的及び役割を尊重し、その活動が促進されるよう支援するものとする」と明記している。区は地域づくり・まちづくりの上で大切な存在。区の意義や重要性の理解促進について、市、市区長会、市社会福祉協議会をはじめ各団体に取り組みを依頼しながら進めている状況だ。

**【委員】**

・区長の発言の通りだと思う。私自身、事業所が区に加入して関係を築いている。区に加入して10、20年たった層がデメリットばかりを感じ、区を抜けてしまっていることを課題に感じている。解決していくためには区に入っていることの意義を見出して伝えることが良いと思うが、簡単にいかない。「助け合いで区に入る」という思いをみんなが持てれば理想だが、その点を重視していない人にどうすれば伝えていくかが難しい。

**【会長】**

・区の加入は大切なテーマで時間をかけて話し合いたい。

**【委員】**

・市内の外国人に対する区への加入について、分かりやすい日本語で書いた冊子はあるか。

**【事務局】**

・日本人向けに配っているものを外国語に翻訳したものは作っていない。  
・市区長会では3年ほど前、区内に住む外国人とのコミュニティの在り方を1年間議論した。その中で「やさしい日本語を使う」「ゆっくりと話す」などをポイントにまとめ、毎年全区長に渡している。

**【会長】**

・市民活動フェスタで多くの人に参加してもらえる方法について意見や提言はあるか。

**【委員】**

・塩尻市のNPO法人えんのわで活動しており、まちづくりフェスティバルという名称で市民活動フェスタと似た内容のイベントを開催している。当初は団体同士の交流を最大の目的にしていたが、外に発信して多くの人に来てほしいという考えになり、方法や名前を現在の形に変えた。具体的には、保育園と小学校にチラシを配り、参加団体には子ども向けに体験やクイズなど交流できる催しを考えていただいた。やり方を変えてから300、400人来るようになった。  
・まちづくりの人財は人の顔が前面に出てきて良い。えんのわも情報誌を作っているが、人が表紙になっている方がよく手に取ってもらえる。関心を持っていただくために有効な手段だ。

**【委員】**

・情報発信は、年代によってSNSや紙などを使い分けることが有効だ。より多くの人に伝えるため、本年度の安曇野市社会福祉大会はあづみ野テレビに収録、放送していただいた。小中学校や高校などにある壁新聞コーナーで、子どもたちに安曇野市内の団体を紹介する方法も考えられる。子どもが学校に通う中で自然と学んでいくことは、将来の人材育成の点でも大切だ。

**【委員】**

・Instagramは非常に有効だと思う。フォロワー数が約60人だと少ないと感じるかもしれない

が、子どもたちが、大人たちが地域を良くするための活動をしているということを知りながら育つことは重要だ。まちづくりのために活躍できる場所があることは大切であり、子どもたちにとってもそういった大人の存在は大きい。さまざまな方法で情報発信を続けてほしい。

・基本方針3の「協働コーディネート機能の充実に向けた人財の発掘・養成」が全てC判定なのは残念だ。人財は、育てて、つなげて、バックアップしていかなければならない。バックアップに当たる支える部分が薄いのは、市民活動サポートセンターの体制が弱いことが理由だと感じる。後方支援に力を入れる必要がある。

**【委員】**

・YouTubeの市公式チャンネルに市民活動団体の活動報告が載るようになり、市民活動フェスタの動画で再生数の多いものもある。Twitterなどを活用しながら、前のめりに情報を発信していただくことはありがたい。

・市民協働事業提案制度で協働事業に取り組んだ経験から、市民活動と協働で目的が違うようにも感じた。市民活動は自身が楽しむという心と体の健康が大きな目的で、協働は地域の課題解決の側面が強い。参加者のマインド（意識）も違うと思われ、目的を分けて考えた方が整理できる部分がある。

**【委員】**

・市民が集まって好き勝手やっていることに目を付け、地域を良くするためにコーディネートする存在が市民活動コーディネーターであり、それをバックアップするのが市民活動サポートセンターだと感じている。市民が自身の楽しみでやっていることを、いかにまちを良くすることにつなげるかが大切。市民活動サポートセンターの活動内容にもっと目を向けるべきだ。

**【事務局】**

・市民活動をいかに協働に結びつけるかが市民活動サポートセンターの役割。団体が活発に活動できれば地域の活性化につながる。

**【委員】**

・いくつかの市民活動団体に所属しているが、行政に対して要求したい内容は団体によって違う。市民活動サポートセンターの事業は、各団体の最小公倍数的な部分になる。施策評価シートは行政としてどうサポートしてきたかという評価であり、謙遜した評価になっている。委員として評価する場合、難しい面がある。団体によって要望する内容が違ってくるため、そうした点を汲み取れる仕組みがほしい。

・メディアに団体のイベント情報をまとめてリリースするなど、依然と比べると市の対応は良くなってきている。SNSの活用も含めて情報発信は更に進めてほしい。回覧板を活用する提案は意表を突かれたが、回覧板で各団体の活動をまとめたものを紹介するより、例えば4月なら会員募集の告知を掲載するなどのほうが効果的だ。情報発信はその団体が生きているというアピールになる上、掲載されることで団体のモチベーションを高めることもできる。市民活動サポートセンターにきめ細かい点までフォローしていただけるとありがたい。

**【委員】**

・学習会の場を活用して協働、市民活動について議論を深めたい。

**【委員】**

・SDGs（持続可能な開発目標）で掲げられた17項目の目標を見た時、11番の「住み続けられ

るまちづくりを」、17番目の「パートナーシップで目標を達成しよう」は協働のまちづくりに通じる。協働のまちづくりが目指す目標を明確にするためにも、SDGsとの関連を考えていくことも必要だ。

**【委員】**

・あづみ野エフエムで市区長会の宣伝をしたが反響の大きさに驚いた。広報媒体を活用し、取り組みをPRしなければならない。協働推進委員会自体も知られていない点は課題だ。

**【委員】**

・協働や市民活動をSDGsなど大きな話と繋げることは良い考えだ。  
・3月6日に開かれた協働のまちづくりフォーラムで、講師から「大切なのはギブアンドテイク」という話があった。ギブアンドテイクの観点で、楽しいから続けられるという考え方は大切だ。メリット・デメリットの考えは避けるべきではない。  
・フォーラムなどでの参加者が限られる点に関して、人生で避けて通れない育児、介護、教育などでテーマを絞った方が良い。「地域の活動に参加しましょう」と呼び掛けても避けられる。楽しみながら助け合って育児をすれば協働になる。誰もが経験するテーマで焦点化し、重点的に取り組めば参加者も増える。

**【委員】**

・どこかで市民活動サポートセンターの議論をきちんとしなければならぬ。協働推進行動計画に書かれた実施体制でやっていけるかどうかを含め、改めて考える必要がある。

**【会長】**

・学習会の場で議論を深めていきたい。

**【委員】**

・あづみ野エフエムやテレビなどを含めて情報発信に取り組んでほしい。  
・本日の議論で改めて市民活動サポートセンターの体制が課題だと認識した。  
・委員間でも協働という言葉の理解にそれぞれ違いがある。学習会の中で共有し、認識を一致させていきたい。

(2) 令和4年度の協働推進委員会の年間計画

**【事務局】**

・資料4に基づき、令和4年度の予定を説明。

(午前11時30分 終了)